第 2014-20 号

恵みと真理のニュース

2014 年 5 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

目には見えないが信仰で感じ、愛で触れる主の暖かい手

私は中学校 2 年生の時友達について教会の夏のキャンプに参加して神様の恵みでイエス様に出会い神霊な体験をしイエス様を救い主として受け入れました。以後礼拝を捧げ神様の恵みと愛に感動を受け聖歌隊で奉仕を始めました。すると親は勉強の害になると反対しました。さらに主日には私が教会に行けないようにご飯もくれませんでした。それにも関わらず朝早く聖歌隊の練習の時間に合わせて教会へ向かう私を呼び立て着ている制服をはさみで切って手で裂けるまで教会へ行かなくした時もありました。それでも屈することなく夏には冬のスカートをはいて密かに教会に行きました。教会に行って来た日には親はドアも開けてくれなくて門の外で罰を受けられる時も多かったです。そのするたびに親と兄弟が私を捨てることがあっても神様は私を捨てなく愛してくださり避ける所になってくださり、守ってくださる事を信じ大胆な勇気を忘れませんでした。
成長しえて結婚する時期にある日、叔母さんは占ないを見てもらってきて言うのが“あなたが熱心にイエス様を信じると結婚できないし結婚してもすぐ追い出されると言われました。”本当にとんでもない話で必ずよい配偶者に出会って仲良く生きることをみせようと心で決心しました。結婚のため 1 年間祈って今の旦那に出会うようになりました。しかし、問題は結婚の相手として私が考えた 10 個の条件の中で大体は満足しましたが一番の信仰持っている人ではなかったことです。何日間悩んで祈りするうちに“神様はこと人を愛するからあなたに与える。”と思い結婚の決心をしました。しかし、結婚してみたら現実は異常とまったく違いました。旦那の家族は儒教思想に徹底した本家でしたし姑も熱心な仏教信者で新婚の時から苦労が多かったです。特に 1 年間 13 回も祭祀をする事は舅と姑には大事な事でしたが私には言葉で表現できないほど苦役でした。この難関をどうやって乗り越えるか悩みながら祈るとき神様は私に知恵と力を与えてくださいました。　“舅姑があなたを完全に信頼し愛するように心を尽くして仕えなさい。そうするといつかはあなたの味方になり、ついには家族みんなが伝道される。”
それから 10 年間心を尽くして親を仕えながら兄弟達にも最善を尽くしましたが大きい失望に至りました。まだ 舅姑が見るときには足りないことがありました。その時まで跡取りの息子がいなかったからです。それで 舅姑を会いに行くといつも子どもをもう一人産むようにと言われました。それで私は息子を産むように神様に期間を決めて祈りました。1 年半のあいだ午前の時間に断食をしつき三回は一日を断食しながら切ない心で祈りました。神様は私の祈りに答えてくださいました。神様の恵みで願った息子を産みました。
その後何年が過ぎたある日、舅姑の家で祭祀があるからまもなく子供達を実家の親に預けました。ちょうどその時、子供達が遊びながら怪我をしました。しかし、不幸中の幸いで 舅姑から“神様に祈って息子を産んだからもうこれから祭祀の時に来なくてもいいよ。”と言われました。神様は舅姑の心まで変えてくださいました。家の祭祀に参加する事がいつも気にかかりましたので神様に舅姑の心を変えてください。 舅姑の口から祭祀に参加しなくてもよいという言葉を聞けるように祈ったらその通り話して驚きました。根深い儒教思想でなにより祭祀を大事に思った 舅姑にも神様が働いてくださって奇跡のような驚くの変化が起きたのです。私は嬉しくて神様に感謝を捧げました。これからは親孝行しながら舅姑を偶像崇拝から救い出し全ての家族も救いの道に導くと決心して自信も出来ました。
その後 15 年が過ぎて舅の誕生日の時でした。私が誕生日の料理を作りました。その日舅はとても喜んで歌も歌って急に“私が今までうちの家でたくさんの苦労したね”と言い“私が足が痛くなければあなたと一緒に教会へ行きたいね”と言いました。舅姑の家では驚くべきことでした。昔の服を着て祖先に礼儀正しく拝し祭祀を行なった方が自ら教会に行ってみたいと話したのはとても驚くことです。私はただ神様の方法で神様の時になると親を救ってくださることを願い祈りだけして私は一言も話さなかったのに 舅が私について教会に行ってみたいと言ったでしょう？
それから何年後にはもっと驚くべきことが起きました。ある日、旦那の妹から電話を受けて田舎の姑が教会に通っているみたいが異端性があるようでよく調べて正しい信仰生活をするように助けるのが良いではないかと言われました。すぐ行って話を聞いたらやはり異端性がある教会でした。その教会の人にもう親はこれから私達がソウルで仕えるから連絡しないようにきっぱりと言い姑を恵みと真理教会で導き結信させました。今まで仏教に根深くお寺で供養した姑は仏と寺に関連する物を全部捨て連絡も一切やめました。今は平日礼拝と朝祈り会まで行き熱心に教会で信仰生活をなさる姿を見ながら旦那は本当に驚くことが起きたと言います。しかし、私はこの全てのことが神様の摂理と恵みである事を知っています。その後、 舅がなくなり葬式を準備する時でした。5 人兄弟の中で私だけ教会に通っていて他の兄弟達は仏教を信じたり儒教思想でした。
それでキリスト教の葬式は弔客達が気まずいと思うかもしれないと反対しました。しかし、私達の夫婦はたとえ父がイエス様を信じたばかりですが救われた聖徒だし母もキリスト教の葬式を賛成したので兄弟達も結局みんな従いました。葬式を行なわれるあいだ導いた牧師が兄弟の中で宗教が一致しない場合たまに小紛したりするが礼拝に参加して賛美も歌うのが良く見えるといわれました。恵みの礼拝を捧げ無事に葬式を終えて神様に感謝を捧げました。
この世を行きながら自分の思いの通りできないから恨んで不平することではなくてただ主だけ見上げながら私がやるべきことに最善を尽くし祈と主が一番よい時に良い方法で答えてくださり回復してくださる事を深く体験しました。私が切に祈ったとおり今まで徹底的な偶像崇拝をした舅姑まで救ってくださったからこれからは兄弟達も救いの道に導いてくださることを信じ期待しながら伝道に力を入れています。生きるあいだ様々な人生の峠を越すことに私の隣にはいつも真実で全能なる主がおられました。主は助けてくださり 御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働いてくださって今日の私と家庭が要ることを考えると神様に感謝するだけです。今日神様の恵みを証をしながら思ったのがこれから変わりなく主を愛し捧げ神様が教会を通してくださった清い職分を担え神様の栄光のために生きる事を決心します。ハレルヤ！

［信仰コラム］　スピーキングと聞き取りが上手な聖徒になると

″… だから、聖霊が言っているように、／「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、8 荒野における試錬の日に、／神にそむいた時のように、／あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない。…″ヘブライ人への手紙　3:7~9)

神様との関係で、スピーキングと聞き取りがお上手なのが大変重要であるという事実について見てみます。
第一に、会話の勉強をします。
人が真の神を知って神様に向かって言って生きることは極めて幸福なことです。神様が選んだ人と民族に、神様がいることを教えてくれて神様と対話できるようにしました。しかし、我々が必ず知るべきことがあります。神様に言うなら、神様の品性と約束に基づいて言わなければなりません。
モーセが神様からの呼び出しを受けてシネ山の上に上がっている間イスラエルの民はアロンに圧迫をかけ、金の子牛を作って崇拝しました。神様が大変怒りました。すると、モーセは無条件に神様に催促しない神様の名誉と約束した言葉と慈悲した人柄に頼って懇請しました。神様が意味を振り返って自分の民に降りなさるとおっしゃった災いを収めました。モーセは神様に言うのにたけた人でした。詩篇の 150 便のうちほぼ半分がダビデの詩になっています。ダビデは過ちとミスが多かったが、彼が神様の特別な愛を着た理由があります。1 番目は、どんな場合にも神様と偶像を兼ねて仕えた事がありませんでした。。二つめは、神様に無数にたくさん申し上げて暮らしました。お元気でときや苦境に立たされた時やいつも神様に申し上げました。神様の性分と約束に基づき、神様に申し上げ、神様に向かって感謝と賛美歌を差し上げました。
神様は私たちが神様を親しくすることを望んでいます。お祈りは神様に自分の考えを話して、自分の都合と事情を話して、神に対する考えを話すことです。たくさん祈りしたら神様と親密になります。神様に言葉をたくさんすることが人生の知恵です。
第二に、聞くことをよくしなければなりません。
神様は神様の話を聞くを楽しんで傾聴する人を好きです。ノアの洪水以前に住んでいた人の中に神を敬う姿勢について手本を残した人物 3 人を指をくっすればアベル、エノク、ノアです。アベルは拘束の信仰で行うことを示した手本です。エノクは神様と同行する生活を見せてくれた手本です。ノアは神様の命令と約束について徹底した純宗と信念で生きることを見せてくれた例です。また彼らはみな神様の話を聞くについた例です。彼らの最大の関心は神様が何とおっしゃってを聞くことでした。ノアは当時の人々がみんな神様の話を聞くを拒否しても彼は神様の言葉を拝聴しました。箱船の規模と材料や形について神様が言った言葉そのまま遵行しました。
がインは神様がおっしゃるあがないの死とあがないについてアダムを通じて聞いたのです。しかし、耳を傾けて聞いていないので救世主を信じる信仰に立って供え物をしなくて土地の所産をいけにえとして差し上げました。神様はがインとそのお供えをうけてしないです。イスラエルの初代の王サウルは神様の話を聞こうと力を入れないてエンドルにある神霊を受け入れてした女性を尋ねました。それによって神様に捨てられてしまいました。神様話を聞くをギ軽忽にしながら神様の愛を受けることになる人はいません。
イスラエルの民が広野で破滅した理由は彼らの心が剛愎て神様に向かって話すと神様の話を聞くこの二つにすべて落第したからです。私たちが神様に何でも申し上げることができるのは、イエス・キリストによる恩恵であり、神様の話を聞くことができるようになったのもイエス・キリストによる恩恵です。皆さんは神様に申し上げとき神様の恩の補佐の前で語っているということを考えて下さい。そして神様の話を聞くとき神様の恩の補佐の前で聞いているということを考えてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

鏡と警戒になること

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人の過ちで起きる災難は先日にあった類似の事故を通じて得るようになった教訓を無視してしまった結果です. “歴史の教訓は人間が歴史の教訓を学ばないというのだ.” という言葉はこのような事実を指摘したのです. **ローマ人への手紙 15 章 4 節に “これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。** と言いました. 私たちが聖書に記録された歴史的事件が分からなければならない理由もそうです. 特に広野を行進したイスラエル民たちにあった事件は広野みたいな世を渡る聖徒たちに貴重な教訓を与えます.
今日の本文には **“これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。”（コリント人への第一の手紙，10：１１）**と言いました. イスラエル子孫たちが広野で経験した事件の中に共通的な核心を整理して私たちが鏡と警戒にしなければならないことをよく見ます.

第一は、神様の品性と口約束を疑ってはいけないです.

聖書で指摘する疑心と言うのは神様の品性と神様の口約束に対した事である. 神様が自分の品性を彼が作った世界と予言者たちを通じて啓示なさいました. そしてさまざまな事件を通じて現わしました. 神様は全知全能なさって無所不在なさりながら永遠です. 義にあって善良で慈しみ深くて真実です. このような神様の品性を私たちが疑ってはいけないです. ある状況に処しても神様の品性は変わらないです. 神様の品性を私たちが最後まで信じて頼れば結局神様がこんな人に神様の光栄を見るようにします. 神様は幾多の約束をくださいました. 私たちは神様の口約束たちを疑ってはいけないです. **“そこで、神は、約束のものを受け継ぐ人々に、ご計画の不変であることを、いっそうはっきり示そうと思われ、誓いによって保証されたのである。それは、偽ることのあり得ない神に立てられた二つの不変の事がらによって、前におかれている望みを捕えようとして世をのがれてきたわたしたちが、力強い励ましを受けるためである。”（ヘブル人への手紙 6:17,18)**と言いました.
エバはサタンに誘われて神様の御言葉を疑ったので善悪をしる木の実を取って食べてアダムにも与えました. ペテロは疑心によって水に落ちて沈み入りました. 神様の民たちが敗北の苦杯を飲んだ最大の原因の中に一つが神様に対する疑心でした. 神様を逆らうようになった原因も疑心でした. 疑心を処理することができなければ不信を生んで不信が大きくなれば 逆らいを生むようになります.

二番目は、貪欲を捨てなければなりません.

多くの物を所有しようとすることが貪欲ではないです. 神様はむしろ彼の民に **“わたしはエジプトの国から、あなたをつれ出したあなたの神、主である。あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう。”（詩篇 81:10）** しました. イスラエル子孫がエジプトから解放されて出たことは奇蹟の中に奇蹟です. 当時に彼らは奴隷のように扱いました. イスラエル女人が男の子を生めばこれを強制で奪ってナイル川に投げ殺すという王命が下ろされていました. このようなところにいるイスラエル子孫が世界の最強の軍事力を持ったエジプトから脱出するということは夢も見られない事です. そういう状況でイスラエル民たちは解放されてエジプトを去り出しました. それも逃げるように出たのではなくエジプト人々に金銀と宝華を要求して受けていて堂堂と出ました. どのようにしてこんな事が起こるようになったんですか? 神様がモセをイスラエルの指導者で立てて彼を通じて大きくなって 驚くべきな奇事と異蹟を行うようにしました.
神様は 2 百万人が超える群衆が 40 年間を広野生活ができるように面倒を見ました. 彼らが食べて飲みながら着るとはくことができるように取り計いしてくださいました. 天から糧食を下げてくださいました. 盤石で水が流れ出るようにしました. 彼らの服がすり減らなかったし足が痛かなかったです. そして遂に乳と蜂蜜が流れるガナアン地で導いて入れてその地を企業でくださいました. 神様がガナアンに定着した彼らに **“あなたの口を広くあけよ、わたしはそれを満たそう.”** しました. しかし彼らの心が硬くして聞かなかったです. その心の 硬くしたとおり神様が捨てておいてその任意どおり行うようにしたとおっしゃいました. だから大きく求めるのが貪欲ではないのが分かります. 貪欲と言うのは神様のお許し願えることを考慮しないで自分の願いのどおり獲得しようと思うのが欲心を意味します.

三番目は、神様に恨んではいけないです.

イスラエル子孫たちは広野生活をしながら神様を向けて数えきれなく恨み不平を言いました. 彼らのリーダーモセに向けても恨みました. モセは神様の前で忠誠されたしもべだったモセに対する恨み不平は神様に恨み不平で見なされました. しかしゴラとタダンとアビラムのように神様の旨を逆って行うリーダーは追従してはいけないです. 一年の間は彼らが立派なリーダーだったがある日から変質されました. 変質されたリーダーの所から去らなければなりません. “ゴラとタダンとアビラムの帳幕四面で発ちなさい.” その神様が言い付けました. その命令を破った人は彼らと一緒に亡びました.
イスラエル民たちは **“われわれは思い起すが、エジプトでは、ただで、魚を食べた。きゅうりも、すいかも、にらも、たまねぎも、そして、にんにくも。しかし、いま、われわれの精根は尽きた。われわれの目の前には、このマナのほか何もない」。”（民数記 11:5,6)**と恨みました. 食べ物が全然ない広野で彼らは神様がくださる糧食であるマンナを毎日食べました. 朝に起きて見れば陳の四面に蜂蜜を交ぜたお菓子みたいな味をつけるマンナが露のように降って積もっていました. マンナをくださる神様が必要だったら肉もいただけるということはそらぞらしい理です. それなのに彼らは神様に感謝することで切に求める代わりに恨み不平を言いました.
貪欲をずっと抱けば恨むようになって恨みは懲罰をもたらすようにします. 私たちは神様に何でも求め入れることができます. しかし不満を抱いて恨む心で求めないように気を付けなければなりません.

四番目は、誘惑と試験を警戒して退けなければなりません.

私たちはこの世を生きる間に誘惑と試験にあって倒れないように常に気を付けなければなりません. 先に神様と偶像を兼ねて仕えようと思う誘惑を退けなければなりません. イスラエル民たちは市内山に上がったモセが降らないので子牛の偶像を作ってその前でエホバの名前を呼びながら座って食べて飲みながら起きて遊び回りました. その事によって神様の震怒を受けるようになって多くの人が死にあうようになりました.
また他の宗教の宗教行事に参加する誘惑を退けなければなりません. イスラエル民たちはモアブ王の計巧に引っかかって異邦神々の祭祀に参加したしペオルのバアルにお辞儀をしました. イスラエル民たちはペオルのバアルに結合したから神様が震怒なさいました.(民 25:1 - 3) こんな誘惑に対して非常に明白で断固たる処身をするように言い付ける言葉が コリント人への第二の手紙 にあります. **“神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」。7:1 愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。” コリント人への第二の手紙, 6:16, 7:1).**

五番目は、救いもらった恵みを忘却してはいけないです.

イスラエル民は彼らの前に当面したちょっとした困難のため重大な恵みを忘却しました. 彼らがエジプトに暮らす時のさんたんな奴隷生活から神様の能力で救いをもらった恵みを考えて見たら現実の困難のため不平を言って恨むことはいくら軽挙妄動した行動なのか分からないです. 私たちをよく見ましょう. 罪悪に縛られて暮して悪魔のしもべになったし, 遂に悪魔とともに永遠に燃える火の池に投げられる運命に処した者でした. ところで神様の大きいな恵みを受けてあがないを与えられた民になったし天の宮を向けて進むようになりました. 私たちはこれをいつも思い出して 一生涯に救いをもらった恵みに対する感激を持って生きて行かなければなりません.

今日 私たちはイスラエル民が広野生活で残した汚点たちを通じて鏡と警戒にしなければならない教訓たちをよく見ました. エジプトから出たイスラエル民の中で多数は広野で滅亡されました. 彼らの始めは良かったが結末が悪かったです. 聖徒の皆さんはイスラエル民たちが経験したことを鏡と警戒にして始めと結末の皆が好きな聖徒になるように願いします.